



教諭 林 俊行

現在、年四回(一学期末・創立記念日・二学期末・卒業式日)発行されています。「下商新聞」は、昭和二十五年の五月一日(月)に記念すべき第一号が創刊されました。当時の記録によると荒木兵一先生と三年生の中山巖部長が中心となつて今日の基礎を築かれたのです。編集は下商新聞部(部としての正式認可は同年七月一日)で印刷は市内の泉菊印刷株式会社にお願いする形で現在に至ります。

昭和二十五年に創刊してその後順調に新聞部員を中心に発刊され、驚く事に多い時は実に年に十四回ものペースで発行されてきました。さらには、節目となる創立記念号は毎回素晴らしい企画で紙面を賑わせており、その企画力には目を見張るものがあります。特筆すべきは、創立七十周年記念特集号(昭和二十九年十月十七日号)は八ページのグラフィア印刷で綿爛豪華な仕上がりで、毎日新聞社主催の第一回学校新聞コンクールで特賞の栄を得ています。

平成十一年に創刊五十周年を迎えた時に、筆者(林)が当時の顧問の方と「創刊号から現在までの全ての下商新聞を印刷・製本して保存版としてみませんか」相談したところ、本校図書館に全ての下商新聞が保存されていることを伺つて、手作業で約一年半の年月をかけて約千ページもの下商新聞縮小保存版(B4判)が完成しました。現在も本校図書館の第一閲覧室(一階)の量のスペース付近に置いてありますから卒業まで一度は閲覧してみてください。

この作業を通じて、全ての発行された新聞を閲覧することができ改めて当時の貴重な記録を知る事ができたこと、発行当初から昭和五十三年頃までは広告と販売によって採算を取っており、真剣に読まれる企画(その年の十大ニュース、投票による本校部活動ランキングや先生方のお宅訪問記、他校訪問記など)を生徒の手で考へていることは興味深いものがあります。さらに、創刊号から昭和四十八年の創立記念号までは、大きな目のプラケット版で、それ以降は現在のタブロイド判(活字印刷に当たり簡便化のため印刷所の希望)で発行されていたことも分かりました。また、この作業を続けていますと本校定時制新聞(昭和三十三年から三十五年まで発行)が十五号まで発行されていたので、こちらの貴重な記録も一緒に保存版にしております。この保存版が完成した時に、当時の富永孝事務長(昭和三十六年卒)が、目を細くして在学時代新聞部員で、毎回の発行の際に時間がなく今では考えられない事ですが印刷所に泊り込んで作業をして学校に通つたことなどの苦勞話を伺いました。「まさに下商新聞は私の青春時代の思い出です」と笑顔で話された事が、今でも思い出されます。

最近では、新聞部員の希望者が減つてしまい顧問の先生のご苦勞で編集・発行されていますが、本校の歴史を刻む大変貴重な資料の一つでもあるこの「下商新聞」を先生方とともに作ってみませんか。作業は大変ですが、学校の情報をいち早く察知して様子を伺い知ることができたり、学校のことを改めて良く知ることができたり、きっと何かを得られると思います。

